

劇場の未来を考える
課題解決型シアターマネジメント2022

発表資料作成： 公益財団法人仙台市市民文化事業団
石丸 正、佐藤 剛彦

2022.11.16

施設の紹介（センターについて）



- 名称
日立システムズホール仙台
(仙台市青年文化センター)
※ネーミングライツ導入により平成25年7月より同名称
- 開館
平成2年3月18日
- 住所
宮城県仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5
(仙台市地下鉄南北線旭ヶ丘駅から徒歩3分)
- 設立の目的
青年の文化活動及び交流の場を提供し、
もって市民の文化及び教養の向上に資する
- 設置者
仙台市（所管課は文化観光局文化スポーツ部文化振興課）
- 運営
(公財)仙台市市民文化事業団 ※非公募による指定管理者

多様な施設機能

優れた音楽専用ホール

コンサートホール

仙台フィルハーモニー管弦楽団の本拠地であり、仙台国際音楽コンクール、仙台クラシックフェスティバルの開催ホールであることから、「楽都仙台」の拠点ホールとして、市民からの高い認知度と顧客をもつ。合唱文化の拠点でもある。

多機能で幅広い舞台表現のための

シアターホール

舞踊、演劇、ポピュラー音楽など、多様な舞台表現分野の受け皿となり、広い舞台面積が特長のシアターホール。演劇祭や演劇プロデュース公演を行うなど、実演芸術の創作実践の拠点として機能してきた。

交流・学習・リハーサル
多様な市民活動を支える

交流ホール／エッグホール 練習室／会議室／アトリエ etc

数多い諸室の存在は施設の大きな強みとなっている。これによって、日常的に市民が集い、多くの部屋分けを要する育成事業や、大型フェスティバルの開催を実現することができる。

誰もが無料で自由に利用できる

パフォーマンス広場

とりわけ特徴的な場所であり、ダンス、楽器演奏、大道芸、演劇など、多種多様な地域の表現者たちが、日々、自由闊達に練習を行うことで施設の魅力づくりに大きく貢献している。

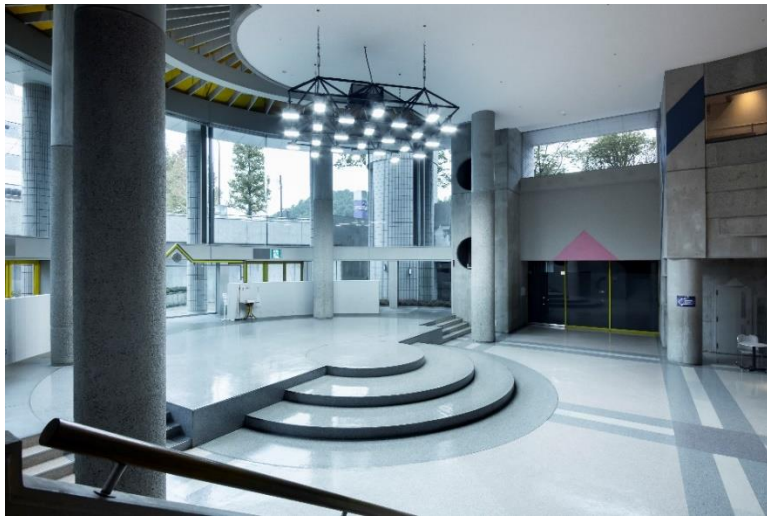
それぞれの「場」を求める地域のニーズに応えることから、貸館としても高い稼働率を保っている。



コンサートホール



シアターホール



パフォーマンス広場

特別講座テキスト

「劇場の社会的価値・評価を高めていくためにⅡ
～現場実態に応じたロジック・モデル構築に向けて」(永山恵一氏)

PDCAサイクルとロジックモデルの対応

- P: Plan (計画) ⇒ 「仮説」ロジックモデル
- D: Do (実行) ⇒ 「活動マネジメント」ロジックモデル
- CA: Check (評価)・Action (改善) ⇒ 「社会的インパクト評価」ロジックモデル

⇒ 活動マネジメントロジックモデルの作成には
「業務の棚卸し」が必要

特別講座テキスト

「劇場の社会的価値・評価を高めていくためにⅡ

～現場実態に応じたロジック・モデル構築に向けて」(永山恵一氏)

日立システムズホール仙台が置かれた状況の整理

- 設置条例の問題
 - ⇒ 「外付け事業」
 - ⇒ 他部署とホールの協働

- 事業や利用の特徴
 - ⇒ コンサートホールでの主催音楽事業
 - ⇒ 貸館での市民活動

- 施設の受益者
 - ⇒ ① プロフェッショナル
 - ⇒ ② プロ志望者
 - ⇒ ③ アマチュア・市民活動者
 - ⇒ ④ 鑑賞者
 - ⇒ ⑤ 来館・利用しない市民

ケーススタディ バリアフリーへの取り組み

背景 ⇒ 社会的にも仙台市からも求められている。
重点取組として指定管理の提案書にも記載

キッカケ ⇒ せんくらリラックスコンサートの開催
(小さなお子様、障がいのある方もみんなと一緒に楽しむコンサート)

行ったこと・今後行うこと ⇒

- ・ハードやルールの整備

 - ほじょ犬の受入れ整備(表示やルールの整理、トイレの整備)

 - 触知案内図の修繕

 - 駐車場の整備(車いす駐車場表示やインターホン整備など)

- ・職員研修

 - 外部講師を招いた職員向け研修(障害サポーター養成研修)の実施

ケーススタディ バリアフリーへの取り組み

問題点 ⇒

- ・課題解決が場当たりのになっている
- ・問題点や課題を集約できていない
- ・職員の知識や対応スキルにばらつきがある
- ・バリアフリーの観点から館内全体を総合的に
企画・立案・チェックするためのスキルや相談先が無い

気づいたこと ⇒

- ・財団内にノウハウを持っている部署がある
- ・仙台市に相談できる部署がある

ケーススタディ バリアフリーへの取り組み

仮説タイプ・ロジック・モデル

